

## やまねこ座

春が近づくと、北の空の高いところで、ひときわ目を引くのが、北斗七星のある「おおぐま座」です。その近く、ふたご座との間に、ぽっかりと星空が開けた場所があるのをご存知でしょうか。この明るい星が少ないエリアに潜んでいるのが、今回ご紹介する「やまねこ座」です。この星座は、古代ギリシャからあるものではなく、十七世紀にポーランドの天文学者ヨハネス・ヘヴェリウスによって作られました。彼は、それまで星座が設定されていなかった「星のまばらな隙間」を埋めるために、新しい星座をいくつか考案したのです。

やまねこ座は、広さだけでいえば隣の「ぎょしゃ座」と同じくらい立派な規模を持っています。しかし、一番明るい星でも3等星で、ほかは4等星以下の暗い星ばかりです。そのため、街の明かりがある場所では見つけるのがなかなか困難な星座でもあります。あえてこの場所に山猫の名を当てはめたのには、ヘヴェリウスなりの理由があったようです。彼はこの星座について、「ここに山猫の姿を見つけ出すためには、山猫のような鋭い目を持っていなければならない…」と冗談めかして語ったといわれています。そう聞くと、この星座は天文学者から私たちへの「視力テスト」のような挑戦状のようにも感じてしまいますね。

都会の夜空ではなかなか出会えない星座ですが、条件の良い夜には、ぜひじっくりと目を凝らしてみてください。もし山猫の姿を捉えることができたなら、あなたも歴史に名を残す天文学者と同じ「鋭い目」の持ち主かもしれません。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）、5文字で星座と神話（すとうけんたろう著 / 講談社）

## 今月の見どころ星どころ 皆既月食と月

文・浜松市天文台  
村松 大河



昨年の9月8日にあった「皆既月食」が、今月の3日の宵から深夜にかけて起こります。部分食が18時50分に始まり、月が地球の影に完全に入ってしまう皆既食は20時04分から21時03分の1時間で、22時17分に部分食が終わります。次に日本で見られる「皆既月食」は2029年1月1日となるため、今回の機会にぜひ見ておきたいですね。

そして、月が本来の輝きを取り戻した後、ぜひゆっくりと夜空を眺めてみてください。日本では古来、月を愛でる文化が深く根付いており、昇る時間や満ち欠けによって「立待月（たちまちづき）」や「居待月（いまちづき）」など、まるで友人の到着を待つかのような名前が付けられてきました。月の出を心待ちにしていた昔の人々の心が伝わってきますね。

天体ショーがある日だけでなく、形を変えていく日々の月もまた、美しいものです。月食の幻想的な姿を、そして翌日からは夜ごとに表情を変えていく月を、日常のふとした瞬間に探してみてください。ふとした瞬間の月は、どんな形をしていて、どんな名前が付いているのでしょうか。日本人が古来愛でてきた月を、皆さんもぜひ日々の空の中楽しんでみてください。月の魅力を再発見するきっかけになれば幸いです。



参考図書…星空年鑑：アストロアーツ、月のきほん：白尾元理著：誠文堂新光社

## 星空クイズ

1等星は21個あります。では1等星を持つ星座はいくつあるでしょうか。

- A 21個
- B 18個
- C 15個

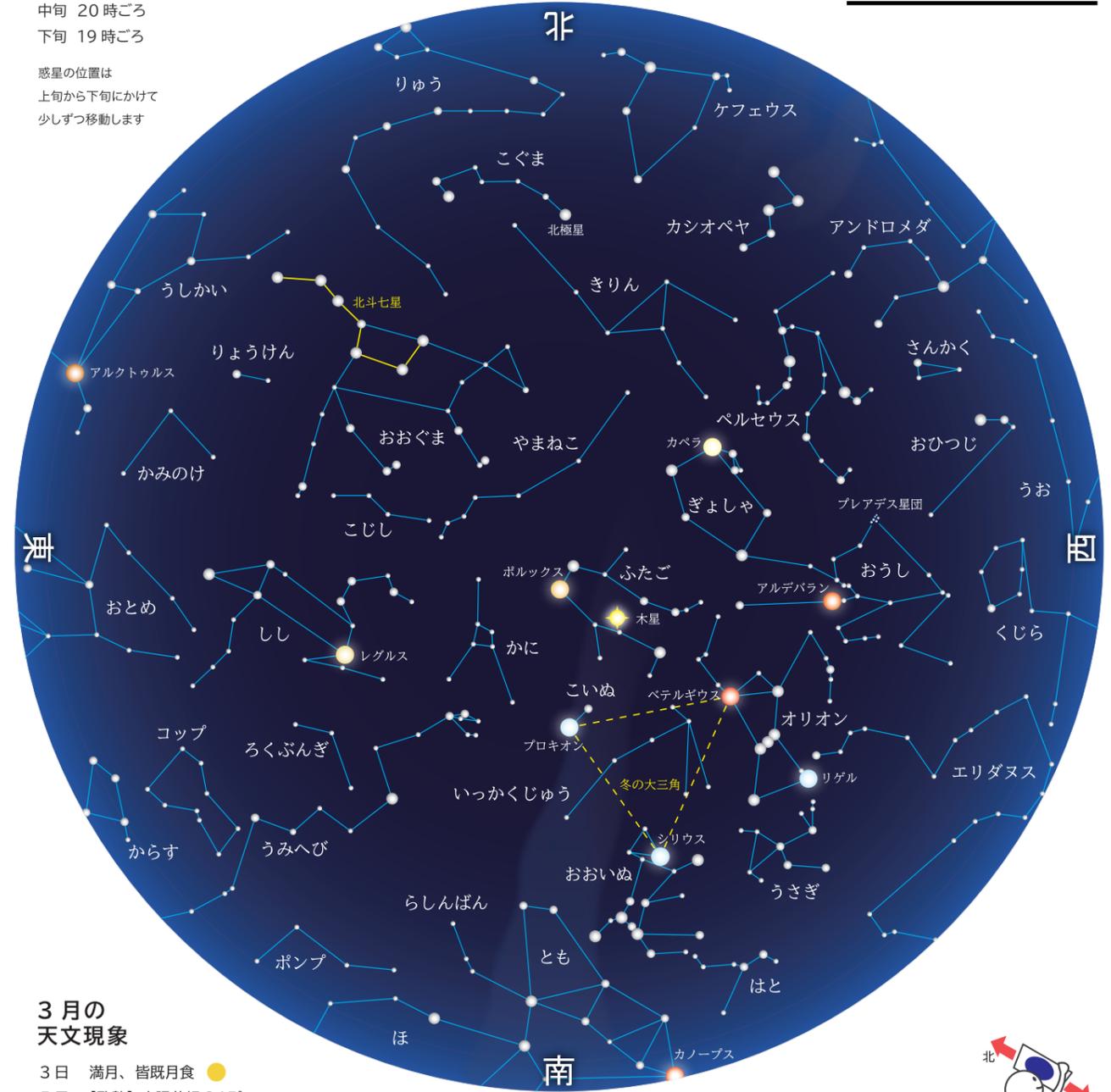
答えは中面へ

# 星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2026年3月  
上旬 21時ごろ  
中旬 20時ごろ  
下旬 19時ごろ

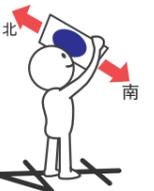
惑星の位置は  
上旬から下旬にかけて  
少しずつ移動します



## 3月の天文現象

- 3日 満月、皆既月食 ●
- 5日 【啓蝓】太陽黄経 345°
- 8日 金星と土星が大接近
- 11日 下弦 ●◐
- 19日 新月 ●
- 20日 【春分】太陽黄経 0°
- 26日 上弦 ●◑

上の星図は、空にかざして  
実際の方角と合わせてご覧ください。



日差しに春を感じる日も増えてきましたね。夜空では冬の星座が西に傾き、東の空には「しし座」が元気に昇ってくる星座の選手交代が始まります。今月は「皆既月食」という楽しみな天文現象も待っています。星空の変化や天文現象など、3月の夜空を楽しみましょう。また浜松市天文台では「ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展」の入選作品の展示を、3月8日（日）まで行っています。ぜひご覧いただければと思います。





## 浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



### イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。

3/7・14・21・28  
土

## 星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30 会場 天文台屋上 申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごと先着20組)



3/1 日

## 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上 申し込み 予約不要 直接会場へお越しください。



3/3 火

## 皆既月食観望会

皆既月食は地球の影に月が隠される現象です。みなさんと赤銅色に染まる月を見ましょう。

時間 18:30～22:30 会場 天文台屋上 申し込み 2/18(水) 13時から受付 (先着20組)



3/14 土

## 天文ミニ講座

星座と当夜の見どころについて、星のソムリエがやさしくお話しいたします。

時間 17:30～18:20 会場 2F 講座室 申し込み 3/11(水) 13時から受付 (先着10組)



裏面のクイズの答え：正解は、B（オリオン座、ケンタウルス座、みなみじゅうじ座は1等星を2つ持ちます。）

## 星空を楽しむ

## 夜空からの、「大丈夫。」

文 浜松市天文台事業協力者の会 岸本千珠加

天文台で星空案内をしていると、望遠鏡をのぞいた瞬間に「わあ！」と顔をほころばせる、みなさんの表情にいつも心を動かされます。初めて惑星を見たときの嬉しそうな顔を見ていると、案内をしている私も、なんだか温かな気持ちにさせてもらっていることに気づきます。

一緒に夜空を見上げていると、星の光には不思議な力があると感じます。今、目に届いているのは何光年も離れた、遠い昔の光。宇宙の途方もない時間や広さに触れると、「自分の悩みはなんてちっぽけなんだろう」と、ふっと心が軽くなります。そんな果てしない宇宙の中でも、どこかで誰かが見守ってくれているような、不思議な心強さを感じます。私が好きな正岡子規の歌に「真砂なす数なき星の其の中に吾に向ひて光る星あり」という一首があります。自分に向かって光を届けてくれる星が必ずある。そう思えたとき、凝り固まっていた気持ちがほぐれて、少しだけ前向きになれる気がします。



## 浜松科学館

### プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



プラネタリウム	大型映像
<p>星空紀行 天竜浜名湖鉄道</p> <p>12月26日～5月31日</p> <p>14:30～15:25</p> <p>天竜浜名湖鉄道 星空紀行</p>	<p>ヒーリングアース</p> <p>3/31まで</p> <p>ヒーリングアース IN JAPAN</p>
<p>星空マルシェ</p> <p>10.15</p> <p>15:50～16:30</p> <p>星空マルシェ</p>	<p>ティラノサウルス</p> <p>3/31まで</p> <p>ティラノサウルス</p>
<p>天竜浜名湖鉄道 星空紀行</p> <p>天竜線の車窓や沿線の星空を見に行きませんか？</p> <p>平日 14:30～15:25 (土日祝は13:00～13:55も放映)</p>	<p>ヒーリングアース IN JAPAN</p> <p>土日祝 10:30～11:10</p>
<p>星空マルシェ</p> <p>気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。</p> <p>平日 15:50～16:30</p>	<p>キッズプラネタリウム</p> <p>3/31まで</p> <p>キッズプラネタリウム</p>
<p>夜科学館 特別放映</p> <p>3/13日(金) 18:00～18:40</p>	<p>夜科学館 特別放映</p> <p>3/13日(金) 18:00～18:40</p>

4月1日より、プラネタリウムの時間と内容が一部変更となります。詳細は科学館ウェブサイトをご覧ください。

## 幻の光「黄道光(こうどうこう)」

column 文・浜松科学館 天文チーム 伊藤将宏

太陽光、月明り、ホタルの光…。世の中にはいくつかの“天然の光”があります。その一つに「黄道光」があります。【図1】のように白っぽい光が地平線からピラミッド状に見えます。黄道光は、太陽の光が惑星間の塵に当たり、反射した光が地球から見えるというものです。ちょうど、埃に光が当たって筋が見える状態に似ています。太陽系には惑星や小惑星など、望遠鏡で観測できる天体もあれば、もっと小さな“気にも留めない”サイズの塵もたくさんあります。それらの存在が太陽光によって浮かび上がっているのです。

日本などの中緯度地域では、春分・秋分がある3月と9月が黄道光の見頃です。【図2】は春分の頃の日本から見た空をイメージしたものです。日の入りから1時間後程度が見映えのピークとされています。黄道光は、天の川よりも暗く淡い光です。街の中からはまず見えません。人工光がほとんどなく、東西の遠方まで暗い場所で、やっと見える程度の光です。そんな幻の光を追って、筆者も以前暗いところで黄道光の目視に挑戦しましたが、よくわかりませんでした。しかし、隣にいた星空観察のベテランの方は「見える」とおっしゃっていました。私もまだまだ修行が足りません…。今年の春分の日には月明りがほぼないので、黄道光を見るには好条件です。リベンジなるか！?

※黄道とは一年かけて空を見た時の太陽の通り道です。太陽系形成の過程で黄道面に塵が集中しており、日本では春分・秋分の頃に地平線と黄道面の成す角が最も高くなるため、黄道光の見頃となります。

